

オーストラリアで広がった私の世界

藍住東中学校 阪東 真生

オーストラリアでの10日間は私にとってかけがえのない体験となりました。この研修は、文化や価値観の違いに触れ、視野を大きく広げる機会となりました。特に印象に残った学校での生活とホストファミリーとの時間について報告します。

まず、学校での生活です。小学校と中学校、高校が一つになっている大きい学校で、建物をつなぐ長い階段に驚きました。日本の高校生にあたる9年生のバディと一緒に、学校生活を過ごしました。特に心に残っていることは、朝食と昼食の間にある、「モーニングティー」という時間です。バディの子たちと、校長先生から頂いた日本のお菓子を食べたとき、彼らが「Delicious!」と言って喜んでくれたことが、とても嬉しかったです。また、バディの数学の授業と一緒に参加できたことも貴重な体験でした。英語での授業に不安を感じていましたが、バディに協力してもらい、問題を解くことができました。この発見によって、数学は国や文化が違って通じる世界共通の言葉だと気がつきました。英語と数学の両方を学ぶことによって、もっと広い世界で人と繋がれるようになりたいと思いました。そして、文化交流会ではみんなで工夫を凝らした日本のクイズや、日本の昔遊びを紹介し、バディたち楽しんでもらえたことも思い出です。掛け声がぴったりと揃い、徳島の伝統文化である阿波踊りの良さを改めて知ることができました。

ホストファミリーとの生活には、日本と共通する点もあれば、異なる点もありました。毎日スパに入る、毎日洗濯をする、家の中では靴を脱ぐといった習慣は日本と共通しており、親しみを感じました。一方で、フォークやスプーンを使うこと、シャワーの時間が5分しかないこと、そして味の濃い食べ物が多いことなど、日本との文化の違いを



肌で感じることができました。休日にはシドニーの遊園地ルナ・パークに連れてってもらいました。入り口の大きな顔のモニュメントを見上げた時の迫力は忘れられません。園内には様々な乗り物があり、ホストシスターとジェットコースターに乗りました。ジェットコースターが走り出すと、隣でホストシスターが「It's Fun.」と笑ったので、私もつられて笑いました。ホストシスターと過ごしたこの時間は、特に大切な思い出になりました。

オーストラリア研修を通して、オーストラリアの良さと日本の良さの両方に気づくことができました。オーストラリアでは、人々が明るく、積極的に発言する姿が印象的で、その前向きな雰囲気がとても良いと思いました。一方で、日本には礼儀正しさや丁寧さといった良さがあり、それは改めて大切だと感じました。これからは、両方の良さを大切にしながら、交流の場で積極的に英語を使えるようになりたいです。そして、日本と世界を繋ぐ“架け橋”になれるように頑張ります。

最後にこのような貴重な体験の機会を与えてくださった事業関係者をはじめ、引率してくださった先生方、ホストファミリーや学校の皆さん、そして共に挑戦した仲間们に感謝申し上げます。

